

〒514-0009
津市羽所町 545番地
TEL 059-225-4735
FAX 059-229-8174



2000年 8月 1日
はがき会報 第2号
発行第一部会
情報文化委員会

《日広連への提言》「制作材料データベースの必要性」

会長になられたソニーの出井伸之氏は、コンピューターと通信が融合し、情報技術 (IT) 革命は、社会にどんな衝撃を与えるのでしょうかとの、朝日新聞「山田厚史編集委員」の取材に次の様に答えておられます。6千5百万年前、(メキシコ)のユカタン半島に巨大いん石が落ちたそうではありますが、其のとき地球上の恐竜を絶滅させたと言われている。それは気象など環境の激変に適応できず哺乳類の時代へと移った。インターネットは正に現代の、産業社会に落ちたいん石のようなものです。

又、ここ数年の内に「ブロードバンド」と呼ばれる通信インフラの、大容量時代が訪れるそうですが、これが2発めのいん石になるそうであります。ですから、インターネット以前に存在していた社会の仕組はことごとく生存の危機に立たされる。それは、企業だけではなく、国家や個人も新たな生存環境に適応する事をせまられるそうであります。

そのため、企業と個人の情報格差はほとんどなくなるそうですが、どこに居ても同じ情報を大量に手にいれることが可能になり、人々を遮断していた、時間や距離や組織の壁などが崩れて行くと言った、様々な変化が起ることは、もはや否定できないそうであります。

更に、デジタル革命はどうなるかと言いますと、10年で70分進むと言われておりますので、想像のできない変化をとげる事は間違いないさそうであります。何故かと申しますと、「情報技術はドッグイヤー」つまり (犬の年齢) と云って1年が7年分のスピードで進んでいると言われておりますから、10年たったら70年の進歩、70才迄の人間が生まれる時代から、今が想像できなかったような、変化がやって来る事は間違いと断言しております。以上のように未来を想定して、情報化社会に直面しても、対応できる手段を講じ、資金の援助までしてくれる「国」の中小企業への配慮は見事に一致しており、確たる裏づけとなっております。

申し上げる迄もなく、我が業界においても個々の事業所では「モノづくり」と情報技術 (IT) を融合させて既に活用している例は少なく有りません、其れを更に一歩踏み出して、業界としてのネットワーク化を確立し、しかもその中味に、利益につながる情報がつまっていて、瞬時に利用できると思えば、組織だけにとどまる事なく、業界全体への波及となって、測り知れない価値を産み出す事を期待するものであり、其の役割を担うのは日広連でなければ成らない。

昨年、情報文化委員会から提案した「制作材料データベース整備事業」応募への推進については、理事会のコンセンサスが得られず見送られてきましたが、6/15日の情報文化委員会で再度推進すべきとの意見が圧倒的多数を占めて承認された。

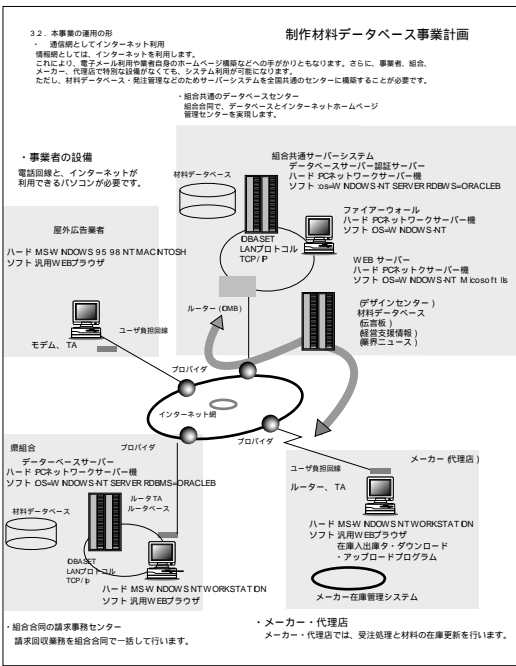
また6/22日の東海地区連合会総会の、直前常任理事会に於いても「制作材料データベース」は業界にとって必要不可欠と、推進の同意を得ております。同時に日広連事務局もようやく重い腰をあげざるを得なくなって7/18日に推進の為の勉強会を、広告会館に於いて実施し、いよいよ本格的な取り組み体制が整いつつあります。

此の事業は日広連が単独のものではなく、私共業界全体の固有の情報通信システムの基盤整備を行う事業であるため、資材メーカーを始め関連する企業のコンソーシアムの確立が絶対条件であります。

先に述べました情報通信 (IT) 革命がもたらす産業構造の変化を予測して米国の (SBR) の制度を国が中小企業技術革新制度 (日本版 SBR) を創設し「中小・零細企業」に対しての支援策として、資金を援助し、情報通信の整備を行う制度の一環であります。「平成 10年 12月」の臨時国会に於いて成立した時限立法であります。

其の中味については「新産業の創設」につながるための補助金、委託費等について、中小企業者への支出機会の増大を図ると共に、その事業化を支援するため債務補償に關しての枠の拡大や担保第三者補償人が不要な特別枠の新設等の支援が受けられる制度であり、ゆる政府が中小企業の技術開発から、その成果を利用した事業化までの支援を行うと言うものである。

昨年迄は「中小企業庁技術課」が実施機関で有ったが、現在では全国中小企業団体中央会に国が委託しており同中央会は、会員となっている



組合員や、連合会を対象に事業の助成を行っており、助成額は当初の額の40%の減額となっており、ソフトの開発費と真正実験費を合わせて、約2億円弱の助成を行っております。これらは将来を見越した支援制度でありますので、私共業界が現状のレベルで判断するのではなく「将来の予測」例えば電子商取引による流通の変革と併せて、モノづくりと情報技術の新たな時代への融合と認識すべきではないかと思ひます。紙面に限り有り機会が有れば次回に。

“ 9月10日は広告の日 ”

三広美では県土整備部都市計画課と合同で、恒例の「花の種&パンフレット」の配布を、松阪駅前で実施します。併せて違反広告物の実態調査も実施します。